

《第 514 回(2024 年 6 月13日) 子どもの本の読書会記録》 参加者:9 人

時間:10:00~11:30 場所:オーテピア 4 階集会室

『だれのせい?』 ダビデ・カリ/さく, レジーナ・ルックトゥーンパレ/え, ヤマザキ マリ/やく green seed books

6月の課題図書は、『だれのせい?』でした。漫画家・文筆家のヤマザキマリさんが、初めて翻訳した絵本です。気高い兵士のクマは、剣の切れ味を試そうと森じゅうの木を切り倒してしまいます。すると、クマの暮らす砦に水が流れ込んできて、砦は壊れてしまいました。クマは誰がやったのか犯人を捜しに出かけます。

次に、読書会に参加した方の感想を紹介します。

●ヤマザキマリさんの翻訳本なので気になっていた。細かい描写の絵が魅力的。因果応報。クマのやったことは、めぐりめぐってクマに返ってくる。ただ、今回の事象は元に戻せる。世の中は元に戻せないことのほうが多い。現実には、人のせいにして、本人が反省していないことも多い。どんな行動も元に戻せる世の中であって欲しい。

●絵本だが、大人に向けて書かれている。最初のクマの表情と最後のクマの表情が対照的。絶滅危惧種のバビルサが出てくるところも象徴的だと思った。自分のしたことは誰のせいでもないとする勇気が描かれている。ヨーロッパの人たちは戦争が身近で起こっていて、人のせいにしていくと感ずることが多いのでは。

●心が穏やかになるような色合いの絵がきれい。余計な背景がないところもよかった。物語に引き込まれるようなヤマザキマリさんの訳がよい。絵本だからこそ、訳者は大切。いろいろなことを考えさせられる一冊。自分のせいじゃないと言っても、自分に返ってくることは身近にある。子どもたちにも伝わるのではないかな。

●最初の「けだかい兵士」というところがひっかかった。これを読んで子どもたちがどう思うか。戦争、環境破壊、難民など多くの問題がある現実を生きなくてはいけない子どもたちの視点が大事。自分の身の回りで問題が起こったときに、絵本の世界がどれだけ心に残っているかだと思う。

●ヤマザキマリさんは好きな作家。この絵本は、絵の色調がやさしくてほっとする。動物たちが服を着ているところもめずらしい。クマのように、自分が悪いと思ったら、言い訳せずに謝れたらいい。だからクマは「けだかい」と表現されているのかなと思った。自分の非を認めて謝れる人になりたい。

●みんな自分がしんどくならないように、誰かにどこかに無理やり原因を作っているのでは。「自分がこう動いたらどうなるか」を動く前に考えて欲しい。この本を読んで、大人も子どもも広い視野で物事を見られるようになるといい。裏表紙にある「すべては思っていたとおり、とはいきません」という気持ちを持つことの大切さ。

●メッセージ性もあるが、重くならず読み進められる。物語として楽しかった。謝ることよりも、自分の非を認めることの方が難しい。それができるクマの「けだかさ」。建国物語のようにも読めた。この森のこれから先を考えると楽しい。トリがクマに「剣でまっぴらつに切っちゃいなよ」と言うところは確信犯だと思う。

●絵がきれい。クマが自分の間違いに気がついて、謝るところがよかった。参加者から、いろいろな意見を聞くことができて楽しい。

●想像力を働かせて考えることのできないクマに「けだかさ」は感じられなかった。ほんの少しでも他者の立場を考える想像力があればと残念。でも、自分が犯人だと知ったクマは、自己中から、相手のことを思いやれるクマに変わる。ほっとした。今の時代を映し出した本で、子どもにも大人にも大切なことを教えてくれる。

次回 7月11日(木)10:00~11:30 オーテピア 4 階集会室

□『じゅげむの夏』 最上 一平/作, マメイケダ/絵 佼成出版社

※申込み・参加費は不要です。